

研究 主題	単元のゴールを意識し、英語で自分の思いを伝え合うことができる授業を目指して —児童が主体的に取り組む学習活動を通して—
----------	--

## 第6学年外国語科学習指導案

指導月日 令和3年10月20日

所属校名 栗原市立若柳小学校

氏名 大島 貴志

### 1 単元名 「Unit6 Let's think about our food.」（東京書籍 NEW HORIZON Elementary6）

#### 2 単元の目標

オリジナルカレーを考え、伝え合うために、食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。

#### 3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動・外国語編」「第2部外国語第2章第2節英語」1目標（1）聞くこと「ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようとする。」（3）話すこと〔やり取り〕「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようとする。」に基づいて設定したものである。

この単元は、食べ物、食事、食材、果物・野菜等の語句や、What did you eat for～? I ate～.I usually eat～.～is from…の表現を用いて、食べた物やそれらの産地、栄養素を伝え合う内容になっている。単元の終末は、「オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう」というゴールを設定し、学んだ語句や表現を組み合わせながら、その場で質問したり質問に答えたりするなど、既習表現を活用したやり取りができる単元になっている。また、教科横断的な視点から、家庭科「できることを増やしてクッキング」と学習をつなげる。新型コロナウィルスの影響で、授業で調理実習を行うことはできないが、考えたオリジナルカレーを自宅で実際に調理し、調理したカレーを英語で説明する活動を行っていこうと考えている。

#### 4 児童の実態 [第6学年2組 26名]

令和3年4月19日（月）と令和3年9月2日（木）のアンケートの結果を比較すると、英語が「好き」または「どちらかというと好き」と答えた児童が、4月には96%だったが、9月には100%になった。4月当初に「どちらかというと嫌い」と答えた1名の児童は、9月には「みんなと楽しく活動できるから今は好きになった」と記述している。

「自信を持って英語で発表できるか」という質問には、4月は28%が「できる」または「どちらかというとできる」と答えていたが、9月は80%が「できる」または「どちらかというとできる」と答えている。4月は、失敗への不安、特に自分の発音に対する不安を理由として挙げる児童が多かった。そこで、「標準的な英語の音声を聞く」「声にしてみる」「自分で／友達と確認する」というサイクルでの単語や文章の発音練習を積み重ねてきた。また、ICT機器を活用し、自分の発音を確認する活動を継続することで、成長を少しづつ実感し、自信を持って英語で話せるようになった。しかし、依然として20%の児童が英語を使って発表することに苦手意識を持っている。

4月同様、現在も友達や先生とインタビューし合ったり、単語や表現を練習し合ったりなど、リラ

ックスした状況で英語を使ってやり取りする活動には積極的に取り組むことができ、好きと答えている児童が多い。以上のことから、「①標準的な英語の音声を聞く」「②声に出してみる」「③自分で／友達と確認する」サイクルに加え、「④自分の姿を録画して確認する」場面も多く設定することで、少しずつ自分の成長を実感し、自信を持って英語を話すことを目指したい。

	A		B		C		D	
	4月	9月	4月	9月	4月	9月	4月	9月
A : あてはまる B : どちらかといえばあてはまる C : どちらかといえばあてはまらない D : あてはまらない (※【設問2】 A : 聞く B : 話す C : 読む D : 書く)								
1 英語の授業は楽しいですか。	9人 (36%)	18人 (72%)	15人 (60%)	7人 (28%)	1人 (4%)	0人	0人	0人
2 英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で楽しい活動はどれですか。	12人 (48%)	10人 (40%)	3人 (12%)	11人 (44%)	3人 (12%)	2人 (8%)	7人 (28%)	2人 (8%)
3 みんなの前で自信を持って発表できますか。	1人 (4%)	6人 (24%)	6人 (24%)	14人 (56%)	14人 (56%)	4人 (16%)	4人 (16%)	1人 (4%)
4 英語を使って友達や先生とやりとりすることは楽しいですか。	9人 (36%)	16人 (64%)	12人 (48%)	5人 (19%)	3人 (12%)	3人 (12%)	1人 (4%)	0人
5 毎時間、課題（めあて）を持って英語の授業に取り組んでいますか。	1人 (4%)	15人 (60%)	16人 (64%)	7人 (28%)	7人 (28%)	3人 (12%)	1人 (4%)	0人
6 毎時間、何ができるようになったか実感できていますか。	4人 (16%)	12人 (48%)	17人 (68%)	11人 (44%)	3人 (12%)	2人 (8%)	1人 (4%)	0人

## 5 指導観

単元のゴールを意識し、英語で自分の思いを伝え合うためには、興味・関心や知的探究心が高まる単元のゴールを設定することが大切である。また、そのゴールを目指し、児童とともに課題（めあて）やまとめを確認する活動や、標準的な英語の音声をできるだけ多く聞き、声に出し、確認していく活動などを継続することを通して、自分の思いを英語で伝え合おうとする気持ちを育んでいきたい。

本単元では、終末に「オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう」という単元のゴールを設定し、日本と外国の食材を組み合わせたオリジナルカレーを考え、タブレット端末でスライドを作成して伝え合う活動を行う。第1時に、単元のゴール（「オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう」）を提示し、その達成に必要な言語材料（伝え合いに必要な情報等）を児童とともに確認していく。また、第1時の学習を基に、1単位時間当たりの学習課題（本時のめあて）を児童とともに確認し、目的意識を全体で共有する。毎時間の導入では、新出語句や表現に慣れ親しませたり、既習事項を想起させたりするために、毎時間 Small Talk を行う。テーマを指定したり、時間制限を設けたりして、児童間で英語を使用する機会を設定する。また、タブレット端末にインストールされている学習者用デジタル教科書を活用し、児童間で単語の発音を確認し合ったり、絵カードを出し合ったりする時間も設定する。さらに、事前に録画した担任とALTのモデル会話を視聴することで、その時間に目指す姿を視覚的・聴覚的に確認する。展開では、段階的なやり取りの活動を設定して、対話を徐々に発展させていく。導入で視聴した担任とALTのモデル会話を、観点を与えて改めて視聴し、その時間のやり取りで必要な表現を児童から引き出す。ペアやグループで、できるだけ多くやり取りする場を設定し、最終的にタブレット端末の録画機能を活用して自分たちの発音を確認する時間を設定する。「標準的な英語の音声を聞く」「声に出す」「自分で／友達と確認する」のサイクルを継続し、成長を視覚的に実感し、話すことへの自信を持たせていく。終末では、児童とともに確認した1単位時間当たりの学習課題（本時のめあて）に立ち返り、児童の言葉でまとめる。そして、児童が毎時間自ら授業に主体的に参加し、できるようになったという達成感を味わわせていく。

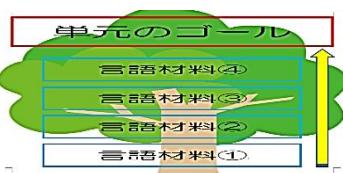
## 6 研究主題との関連

研究主題を「単元のゴールを意識し、英語で自分の思いを伝え合うことができる授業を目指して」とし、以下の2つの手立てを講じる。

### 【手立て1】単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

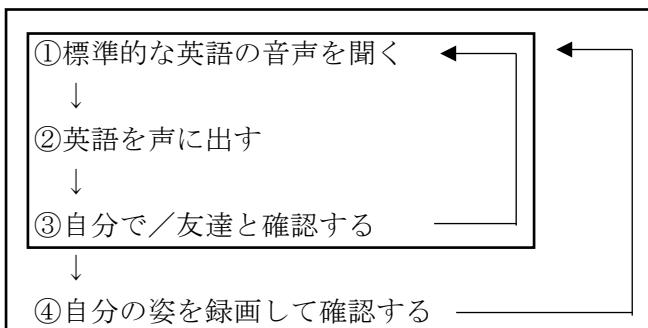
単元の第1時に単元のゴールを提示し、児童とともにその達成に必要な言語材料を確認する。提示

したゴールと確認した言語材料を教室内に掲示することで、常にゴールを意識し、見通しを持った学習につなげていく。毎時間、第1時の学習を基に学習課題（本時のめあて）とまとめを児童の言葉を生かして設定することを継続する。そして、児童自ら主体的に授業に参加し、できたという達成感を持たせる。



単元のゴールを示した掲示物

### 【手立て2】児童が自信を持って英語を話すためのICT活用



単語や文章を練習する際、①②③のサイクルで練習していく。その後、④で客観的に確認する。練習が不十分だと感じた時は、①に戻り練習を積み重ねていく。自分の成長を動画で確認することで、少しずつ英語を話すことへの自信を持つことにつなげていく。

#### ① 英語の音声を聞く

学習者用デジタル教科書の単語練習機能を活用し、標準的な英語の音声を明瞭に聞くことで、自分の発音のモデルとする。

#### ② 英語を声に出す

学習者用デジタル教科書の単語練習機能に合わせて声を出す。苦手な発音がある場合は、何度も繰り返し聞いて声に出すことでモデルとなる発音に近づける。

#### ③ 自分で／友達と確認する

翻訳機能を活用して、自分の発音が正しく聞き取られるかを確認したり、写真ツールのアルバム機能を活用して友達と写真を見せ合い、それを英語で言えるかどうかをお互いに確認したりする。

#### ④ 自分の姿を録画して確認する

録画機能を活用し、客観的に自分の姿を確認する。また、自分の発音ややり取りに課題がある場合には、修正するために自分で練習を選択して取り組む。

## 7 単元の指導と評価の計画

### (1) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 I ate~. I usually eat~. ~ is from… 及びその関連語句について理解している。 〈技能〉 食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて聞き取る技能を身に付けています。	○オリジナルカレーを考え、伝え合うために、食材を通じた世界のつながりや食べ物の産地・栄養素などについて、短い話の概要を捉えている。	○オリジナルカレーを考え、伝え合うために、食材を通じた世界のつながりや食べ物の産地・栄養素などについて、短い話の概要を捉えようとしている。
【話すこと】	〈知識〉 I ate~. I usually eat~. ~ is from… 及びその関連語句について理解している。 〈技能〉 食べ物や道具について、考え方や気持ちを伝え合う技能を身に付けています。	○オリジナルカレーを考え、伝え合うために、食材を通じた世界のつながりや食べ物や食材の産地、栄養素などについて、お互いの考え方や気持ちなどを伝え合っている。	○オリジナルカレーを考え、伝え合うために、食材を通じた世界のつながりや食べ物や食材の産地、栄養素などについて、お互いの考え方や気持ちなどを伝え合おうとしている。

## (2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時4／8）

時	目標◆・主な活動○【】	評価			
		知	思	態	備考
1	<p>◆単元のゴールを知り、必要な言語材料を確認する。</p> <p>①Small Talk：昨日食べた物 ②単元のゴールとその達成のために必要な言語材料を確認する。 ③単語や英語表現の練習 ④振り返り</p>				<p>記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行い、学習状況を確認する。 (5, 6, 8時も同様)</p> <p>④コミュニケーションアプリツールを活用して毎時間自己評価する。</p>
2	<p>◆普段食べている物や食材の言い方を知り、聞くことができる。</p> <p>①Small Talk：30秒間やり取り ②言語材料を基に本時の学習課題を確認する。 ③単語や英語表現の練習 【Let's Try①】ワードゲーム 【Starting Out】登場人物が食べた物などを聞き取る。I usually eat ~.の表現を使いやり取りする。 ④振り返り：第1時と同様 ※第2時の①～③は導入で、④は終末に毎時行う。</p>	聞			<p>【Starting Out】では、聞き取ったことをタブレット端末に記入し、データで提出させ、評価の材料にする。 (評価規準は7(1)を参照)</p>
3	<p>◆食べ物の産地を英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen①】登場人物が食べた食材を聞く。 【Let's Try②】食べ物の産地について英語でやり取りする。</p>	聞	聞		<p>【Let's Listen①】では、聞き取ったことをタブレット端末に記入し、データで提出させ評価の材料にする。 (評価規準は7(1)を参照)</p> <p>【Let's Try②】では、ペアでのやり取りの様子を動画で撮影し、提出させる。</p>
4 本時	<p>◆食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝え合うことができる。 【Let's Listen②】食材の栄養素のグループを聞く。 【Let's Try③】食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語でやり取りする。</p>	話			<p>【Let's Try③】では、ペアで英語カードを使ってやり取りの様子を動画で撮影し、提出させる。 (評価規準は7(1)を参照)</p>
5	<p>◆オリジナルカレーの下絵を作成する。 ○スライドモデルを確認し、スライドに必要な情報を全体で共有する。 ○スライドの下書きを作成する。</p>				
6	<p>◆オリジナルカレーのスライドを作成する。 ○タブレット端末でスライドを作成する。 ○やり取りに必要な表現を確認する。</p>				
7	<p>◆作成したスライドを作成して、自分の考えたオリジナルカレーについてやり取りすることができる。 ○グループでスライドを見せ合いながらオリジナルカレーについてやり取りする。</p>	話	話		<p>○自分が作成したスライドを活用し、その場で質問したり、質問に答えたりする活動に取り組む。やり取りの様子を動画で撮影し、提出させることで評価の材料にする。 (評価規準は7(1)を参照)</p>
8	<p>◆日本と世界の食料事情について考え、世界と日本の文化の理解を深める。 【Do you know?】【Challenge】【ことば探検】</p>				

## 8 本時の計画

### (1) 目標

食べ物がどの栄養素のグループに入るのかについて英語で伝え合う。

### (2) 本時の指導に当たって

#### 【手立て1】単元のゴールとめあてを意識させるための工夫

第1時で本単元のゴール（「オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう」）を提示し、その達成に必要な言語材料を児童とともに確認している。本時では、教室の掲示物を活用し、「食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝え合おう」という学習課題（めあて）を設定し、共有する。終末では、本時の課題（めあて）に立ち返り、本時でできるようになったことを全員で振り返り、児童の言葉でまとめる。

#### 【手立て2】児童が自信を持って英語を話すためのICT活用

##### ① 標準的な英語の音声を聞く

学習者用デジタル教科書を活用して、「食材」「野菜・果物」の英単語を自分のペースで聞かせる。

##### ② 英語を声に出す

学習者用デジタル教科書の英語表現練習機能を活用して、個々のペースで練習に取り組ませる。

##### ③ 自分で／友達と確認する

タブレット端末の写真ツールのアルバム機能で、「食材」「野菜・果物」の英単語のイラストを見ながら自分で確認したり、友達とクイズを出し合ったりして、英語を使う場面を設定する。

##### ④ 自分の姿を録画して確認する

本時のやり取りに必要な表現を友達と練習した後、自分の姿を客観的に確認する。自分の姿から改善点を見付け、再度練習に取り組ませる。動画は提出させ、評価の材料にする。

### (3) 指導過程

段階	主な学習活動 ○主な発問・指示	指導上の留意点	評価
導入	1 挨拶と Small Talk をする。 2 前時の学習を振り返る。 3 本時の課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝え合おう。</b> </div>	◎既習表現を使い、体調や日付、天候、その日のテーマについて教師や友達と英語でやり取りをする。 ◎単元のゴールと前時までの表現を掲示物を活用して確認する。 ◎単元のゴールの達成に必要な言語材料「栄養素」というキーワードを児童から引き出し、本時の課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; float: right;">手立て1</div>	
展開	4 本時の目指す姿を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             HT : What did you eat last night?              ALT: I ate beef curry and rice last night.              HT : Where is the beef from?              ALT: The beef is from Wakayanagi.              And beef is in the red group.           </div> 5 Word Link に取り組む。 ○全体で本時に扱う単語を練習する。 • 全体で復唱する。 • 全体でスピードを上げて復唱する。	◎本時で目指すやり取りの姿をイメージさせるために、ALTと担任のモデル会話を動画で確認し、本時のやり取りに必要な表現を確認する。  ◎ポインティングゲームでは、ただ指で押さえさせるだけでなく、声に出しながら押さえさせる。単語だけでなく、文章でも声に出させ	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポインティングゲームをする。</li> </ul> <p>○個人で単語を練習する。 タブレット端末の活用</p> <p>○ペアで単語を確認し合う。 タブレット端末の活用</p> <p>6 Let's Try③に取り組む。</p> <p>○ALTと担任のモデル会話を再度視聴し、本時のやり取りに必要な表現を確認する。</p> <p>○絵カードで本時の表現を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで本時の表現を使って活動する。</li> <li>・全体で本時の表現を確認する。</li> </ul> <p>○本時の表現を用いて、食べ物がどの栄養素のグループに入るのかを英語で伝え合う。 タブレット端末の活用</p>	<p>ることで、本時のやり取りに必要な表現に慣れ親しませる。</p> <p>⑦学習者用デジタル教科書の単語反復練習機能を活用して、個々のペースで練習させる。 手立て 2</p> <p>⑧写真ツールのアルバム機能を活用させる。 手立て 2</p> <p>⑨観点を与えてモデル会話を視聴させ、本時のやり取りに必要な表現を児童から引き出す。</p> <p>⑩絵カードをシャッフルし、めくつて出たカードがどの栄養素なのかを英語で伝え合わせる。</p> <p>⑪ペアでやり取りの様子をタブレット端末で録画することで記録を残せる。 手立て 2</p>	
終末	<p>7 本時のまとめをする。</p> <p>食べ物がどの栄養素のグループに入るかは、～is in the ( ) group.を使う。</p> <p>8 本時の振り返りを行う。 タブレット端末の活用</p>	<p>⑫児童と本時の学習を振り返り、まとめの言葉を引き出す。 手立て 1</p> <p>⑬コミュニケーションアプリツールを活用し、本時の課題の達成度を自己評価させる。 手立て 2</p>	【知】【技】 話すこと [やり取り]

## (4) 本時の評価

評価の観点 話すこと [やり取り] &lt;行動観察, 動画&gt;

	十分満足できる (A)	満足できる (B)	努力を要する児童 (C) への手立て
知・技	簡単な語句や基本的な表現に加えて、既習表現を用いてどの栄養素のグループに入るか伝え合っている。	簡単な語句や基本的な表現を用いて、どの栄養素のグループに入るか伝え合っている。	Let's Try③の個人練習の際に、助言や支援を行い、改善状況を見取る。また、次時以降も本時の表現を扱う。

## (5) 準備物

①教師：教科書、タブレット端末、絵カード

②児童：教科書、タブレット端末

## (6) 板書計画

Date October 20th/2021 Day Wednesday Weather Sunny	<p>⑨ 食べ物がどの栄養素のグループに入るか英語で伝え合おう。</p> <p>Q: What did you eat last night?</p> <p>A: I ate ~. ~ is in the ( ) group.</p> <p>⑩ 食べ物がどの栄養素のグループに入るかは、～is in the ( ) group.を使う。</p>
<p>オリジナルカレーを考え、英語で伝え合おう。</p> <p>オリジナルカレーを考えて、英語で伝え合おう。</p> <p>どのグループ 産地 ふだんのカレー 食べ物・食材</p>	